甘楽町広報

昭和39年12月15日　（毎月15日発行）　第61号【1頁】

12月の納税

1. 町県民税　才4期

年末なので納期限は25日です。

早めに完納して、すっきりした気持で越年しましょう。

12月1日の人口と世帯

世帯数	2,687戸
男	6,956
女	7,299
計	14,255

発行所　群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡甲852　甘楽町役場　電話（小幡）4番・44番・49番

編集　総務財政課　企画文書係

印刷所　坂本印刷株式会社

町道小舟～引田間開通

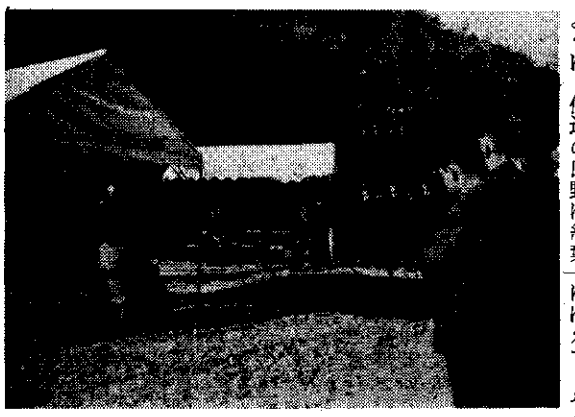
自衛隊の誠実な作業で

自衛隊第十二施設大隊によって起工された町道・小幡～多胡線（うち小舟～引田間）の改修工事は、作業隊の誠実な作業によって、工事が予定より早くすすみ、十一月十九日にしゅん工式を行ないました。この間、わずか四十五日間で、工事計画の一部変更はありましたが、延長は約九〇〇メートル、幅五、五メートルの道路ができあがつたわけです。

この日、町側から議会議員自衛隊協力会役員、婦人協力会役員、この工事にご協力いただいた土地所有者、推進委員など百名が出席し、来賓に第十二師団幕りょう長、同第四部長、第十二施設大隊長らを招いて行なわれました。

式は、藤岡作業隊長の工事経過報告につづいて、工事引渡書の交換、町から第十二施設大隊、同本部管理中隊に感謝状、記念品を贈呈したあと町長が「りつぱな道路をつくつていただきありがとうございました。このうえは、一日も早くこの道路を整備する計画です」とお礼のことばをのべました。

小舟山をみごとにきりひらいてしゅん工したこの日を祝うように、付近の山野は紅葉にはえて、その中で参列者たちはみごとに完成したこの町道を見わたして、嘆息まじりの賞賛を発しておりました。



写真上はしゅん工式

有線放送電話が開通

加入者は二千一〇〇世帯

甘楽町農協（黒沢潤次郎組合長）が、ことしの三月一日の合併記念事業として計画した有線放送電話は、全町内から二千一〇〇世帯が加入し、十二月二日から全線開通されモシ、モシと話せることになりました。加入率は約八〇パーセントにあたりますから、十〇〇世帯のうち八〇世帯が加入していることになります。

放送交換所は役場に隣接して建てられ、内部には四台の交換機、録音室、調整室などが設備され、九人の交換嬢が交代制で、お知らせ放送や電話交換にあたることになつています。

農協の柴山鉄太郎専務のお話では、総工費は約五千四〇〇万円（まだ精算できない）ぐらいではないかということですが、このような大事業を住民のみなさんも、農協の役員さんも、よく協力してなしとげてくださいました。

おかげさまで、町内のすみずみまで通信網がはられ、農協からの連絡はもちろん、役場や学校などのお知らせも簡単にできるし、私たちも連絡や問い合わせがらくにでき、ひじように便利に生活できるようになつたわけです。

写真上は交換台　左は家庭に設置された電話機

小幡小のよい子たち

作業隊員を慰問

「校庭をきれいにしていただいて、ありがとうございました」と小幡小学校のよい子たち六四〇名が、十月十六に自衛隊の作業現場を慰問しました。

この日、先生がたに引卒された児童たちは、作業隊の現場を見学かたがた、隊員さんがよろこびそうなおみやげをもつて、元気に小舟山に登りました。

現場では、藤岡作業隊長の説明に熱心に耳をかたむけたり、作業現場の大きなブルドーザに目をみはり、たくましくうなるエンジンの音に歓声をあげていました。

「みなさん、そこにあるブルドーザを見てください。ねんはどのくらいすると思いますか？百円や二百円で買えないことはおわかりでしようね。一千万円もするのですよ。ああいう大きな機械で、岩をくだき、山をきりひらくのです。いま、私たちがやつている工事は、第二期工事ですがこれが第三期と進んで、この奥の天引という部落につながると、この道はもつともつと人や車がとおつてにぎやかになるし、バスも通るようになるかもしれませんね。」

やさしい作業隊長の説明にいちいちうなずいていたよい子たちは、やがておみやげの慰問品をさしだしました。

お花やくだもの、野菜、歯ミガキ粉など、よいた子ちのおもいおもいの慰問品に、作業隊長は「ありがとう」「ありがとう」を連発し、心からうれしそうでした。

それからブルドーザにのせてもらつたりして、約一時間にわたる楽しい現場見学を終わりました。

写真上は作業隊長に慰問品を贈るよい子たち

難工事を終え

作業隊全員が離町

この校庭は中央部が低くなつているために、雨が降ると周囲から水が流れ込み、児童の体育指導などにたいへん支障がありました。そこで学校ではPTAにおねがいして堀をつくり、水の流れ込むのをふせぐ計画をすすめていました。しかし、広い校庭のことですから、PTAが「クワ」や「リヤカー」などでやつたのでは、容易にできるものではなく、頭痛のたねとなつていました。

これを作業隊におねがいしたところ、心よく引き受けてくれ、整地されたもので、グレーダの威力のすばらしさには、児童も先生も全くおどろいたようでした。

「いろいろありがとうございました。今後ともよろしくおねがいします。」

十一月二十日、自衛隊の土木工事のいつさいをおえた第十二施設大隊の藤岡作業隊長以下十四名の隊員たちは、こう別れのあいさつをのこして町を去りました。

この日、小幡小学校全児童をはじめ、議会議員、婦人会員などの多くの人たちが見送るなかで、作業隊員はまず役場前に整列し、町長に帰隊のあいさつをしんあと、先日作業現場へ慰問をうけたお礼にと、小幡小学校へ記念の「たて」を児童代表に手わたし、見送りの人たちに手をふりながら帰隊の途につきました。

町道、小幡～多胡線改修第二期工事を、自衛隊の土木工事として実施してから四十五日間、自衛隊の日ごろきたえたすぐれた技術と機械力を生かして、短期間にこれを完成し、当町発展の基礎づくりに貢献されたことは、わたくしたち町民として、深く感謝するほかありません。

作業隊員は毎日、朝は六時に起床、六時十五分に朝食、七時からは現場で作業を開始し、正午に昼食、午後一時からまた現場で作業を開始、五時に作業を終わり、五時半に夕食、入浴、九時半に消燈するという日課のりくかえしのなかで、作業隊員のひとりひとりから、その使命の自覚、責任の遂行、規律の厳守などを感じ、つねに私たちの心を自己の心として、一身の利害を越えて、公のためにつくすものの誇りを感じました。

そして、私たちの平和な生活を守つてくれる自衛官たちが、なによりに私たちから信頼され、敬愛される資質を備えるために努力している姿に、深い敬意を表するものです。

わたくしたちはいま「自衛隊のみなさん、ほんとうにありがとうございました」と心からお礼を申しあげるのですが一体となつて、ご協力いただいたたまものです。

みなさん、ほんとうにありがとうございました。

次にその工費のあらましをあげると上表のとおりです。

工費予定の半分で完成

今回の工事は、作業隊の誠実あふれる工事のおかげで、作業日数、工費なども計画をおおきくしたまわる費用で完成いたしました。

これは自衛隊のご努力によるところはもちろん、全町民

町道小幡～多胡線改修工事支出表

費目	支出予定額	実支出額	支出率	内訳
	円	円	%	
旅費	96,840	33,915	35.00	隊員の滞在日当旅費
輸送費	29,904	27,540	92.09	軽油、ガソリン、その他
燃料費	885,593	446,010	50.36	工事用軽油、ガソリン、グリス、エンヂンオイル ギヤーオイル、その他
資材費	13,540	11,786	87.04	クギ、針金、ナワ、ヌキ その他
通信費	2,926	1,461	49.93	作業隊と部隊などの連絡費
光熱水料費	58,880	19,247	32.68	マキ、マツチ、木炭、石油、電気料
事務用消耗品費	11,000	9,294	84.49	ざら紙、方眼紙、画びよざう、セロテープ、鉛筆、その他
合計	円 1,098,683	円 549,253	% 49.99	

飯塚長次郎さんが死亡

甘楽町の有功者として尊敬されていた飯塚長次郎さん（六十六才・秋畑）が、十一月九日肺炎のため自宅で急死しました。

飯塚さんは、昭和十九年、秋畑村区長をはじめ、多くの公職をつとめられたひとで、当町の初代議会議長として活躍された記憶は、まだ私たちに新しいものがあります。

飯塚さんはこの間、議会議員十六年、区長三年、農業委員六年、教育委員三年、消防団長三年、秋畑農業協同組合長八年などをつとめ、昭和三十二年には地方自治功労者として、県町村議会議長会から表彰され、三十三年八月には町の有功者として表彰されております。

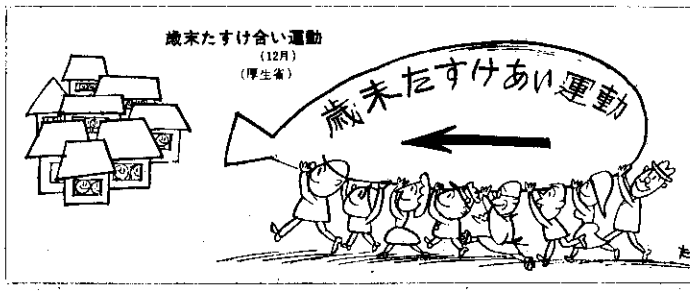
また、三十七年一月から始められた万場～富岡線の改修工事には、ひじような熱意をもつて工事の促進にあたられておりましただけに、開通を目前にして他界されましたことは、さぞかし残念なことでありましよう。

ここにあい悼の意を表するとともに、広くみなさまにお知らせします。

松かざり

今年も代用品で

いよいよ正月のまつかざりの時期です。町では、ことしも森林保護のため、門マツと内かざりマツの代用品を二枚ずつ毎戸に配付します。正月はこの代用マツかざりで済ませるよう、ご協力ください。



みんながサンタクロースに

受付期間　12月25日まで

受付場所　甘楽町役場および各出張所